



大手町クリニック

内科・消化器内科

愛媛県松山市大手町1-11-1 愛媛新聞・愛媛電算ビル6F
TEL.089-931-1374 FAX.089-961-4355
<http://www.ootemachi.info>

内視鏡検査からストレス除去まで幅広く診療 地域密着の頼れるパートナーを目指します！

対談

院長 医学博士

松原 寛

インタビュー「俳優」

萩原 流行

萩原 松山市の中心部にございます大手町クリニックさんを訪ねました。聞くところによると、七月二日に開院されたばかりだそうで（対談日：平成二十四年七月十二日）、おめでとございます。早速ですが、松原院長の経歴からお聞かせ願えますか。

松原 私は生まれも育ちも松山でして、愛媛大学医学部を卒業後、大学附属病院での研修を経て、主に南予地方の医療機関で勤務医として研鑽を積みました。大学院で博士号を取得後は、松山市内の四国がんセンターなどで後輩医師の指導に当たり、松山

リハビリテーション病院ではリハビリにも携わった上で、理学療法的なことにも取り組めるのではないかと当クリニックの開院に至りました。専門は消化器内科で、主に肝臓、胆嚢、膵臓のがんを診てまいりました。

萩原 日本医師会認定産業医、日本内科学会認定内科専門医、日本肝臓学会指導医、日本消化器病学会認定専門医、日本消化器内視鏡学会指導医、日本超音波医学会認定超音波指導医など数多くの資格を有しておりますが、独立に関しては以前から決めていらっしやったのですか。

松原 実は全く考えておらず、まさに青天の霹靂でした（笑）。当クリニックは二十五年ほど前に前院長の大西先生が「大手町クリニック・大西」の名で診療をスタートさせました。しかし引退されることになり、医療機器なども引き継ぐ形での開業となったわけです。大西先生は麻酔科の専門医で、ペインクリニックに積極的に取り組んでおられましたので、開院に当たって診療技術や知識に関して直接ご指導を賜りました。

萩原 急転直下の開業だったと。大西先生とは以前から面識があったのですか。

松原 はい。三年ほど前にお会いしたのが最初でしょうか。今年三月にいきなり電話があり、「引退することにした。君が引き継いでくれるのなら譲るし、そうでなければ売却する」とおっしゃるわけです（笑）。そこで実際にクリニックを視察したのですが、立地条件や設備はもちろん、スタッフの仕事ぶりや患者さんへの対応を見て、「これならやっていけそうだ」と感じたため、引き継ぐ決意を固めました。

萩原 そうしますと、スタッフはそのままの布陣で臨まれているわけですね。

松原 いえ、以前はパートさんを含め十名以上のスタッフを抱えておりましたが、私が考える規模ではどうしても多いものですから、婦長をはじめ一部の人の残っただけで現在は八人体制となっています。

経鼻内視鏡は医学の大きな進歩

萩原 松原院長がドクターになろうと思われたきっかけは何だったのですか。

松原 中学生の時に妹がネフローゼ症候群にかかり、長期の入院生活を余儀なくされたのです。ようやく退院したと思ったら、今度は父親がギラン・バレー症候群で倒れ、一年半くらい仕事ができない状態になりました。そのような背景から医療の世界に飛び込もうと考えました。

萩原 ご家族を次々に襲った病気がきっかけなのですね。数ある診療科目の中で消化器内科を専門にされたのは、何か特別な理由でもあったのでしょうか。

松原 妹の病気がきっかけということですが、当初は小児科医を目指そうと考えていました。学生時代に電子内視鏡（胃カメラ）が開発され、モニターを見ながら胃など体内を直接チェックできる画期的な機器に興味があり、その中で自らクリアに診断できる

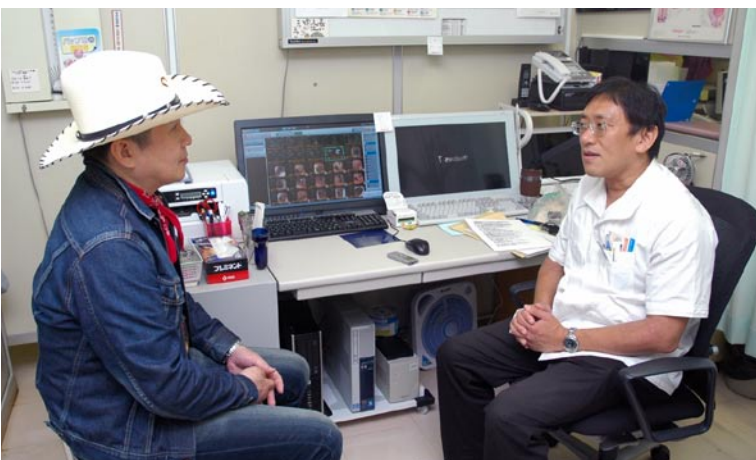
のではないかと考えたものですから、消化器内科を標榜しました。

萩原 私も消化器内科と聞いて真っ先に思い浮かべるのは内視鏡検査です。

松原 当クリニックはビル内の診療ということもあって大腸の検査はできないのですが、鼻腔から挿入する電子内視鏡を駆使して胃や食道などを診る上部消化管検査は可能です。その他、造影検査も可能な超音波診断装置（エコー）がございますので、肝臓、胆嚢、膵臓といった腹部臓器の他に乳腺や甲状腺など幅広く診察することが可能です。

萩原 今や経鼻内視鏡は一般的になった感がありますね。

松原 そうですね。口から管を挿入すると嘔吐感に見舞われたり気持ちが悪いです。患者さんが多いのは事実で、その意味からも経鼻内視鏡は医学の大きな進歩と言えます。しかし最近では経鼻内視鏡の管を口から入れると「刺激が少なくて楽」という患者さ





家族の度重なる病気がきっかけで医師の道を目指し、消化器内科専門医として四国がんセンターなど様々な医療機関で経験を積んだ後、平成24年7月2日に松山市中心部で大手町クリニックを開業させた松原寛院長。電子内視鏡(胃カメラ)や超音波診断装置(エコー)など充実の医療診断機器はもちろん、何より伝わってくるのは「少しでも楽になってもらい、笑顔でお帰り頂きたい」という患者さんへの真摯な診療姿勢である。経験豊富なスタッフと共に“心に寄り添う医療”を末永く実践してもらいたい。

INTERVIEW HIROSHI MATSUBARA × NAGARE HAGIWARA



松原 例え、胃がんなどは五十代以降で発症するケースが多いので、四十代になったら一回はエコーや内視鏡の検診をお勧めします。もちろん十代で胃がんや大腸がん、乳がんを発症されたケースも目の当たりにしてきましたし、女性でしたら三十代前後でスキルス性胃がんが見付かることもありますので、本来なら気になった時点で定期的に検診されるのがよいのですが。

萩原 つまり自分の身体に気を配るのであれば、二十代でも早くはないと。実際に診療する中で、これまで胃カメラを経験したことがないという人は多いでしょうね。

松原 おっしゃる通りで、七十代で初めてという患者さんも多くおられます。

萩原 私は三十代で十二指腸潰瘍を患ったのですが、その時は胃カメラの管も太かった

んも意外に多いので、しっかりと説明した上で鼻か口かの挿入経路を選択して頂いています。鼻から入れると楽ですが、中には粘膜にこすれて鼻血を出す方もおられますので、また、検査中はモニターをご覧頂きながら状況をご説明することもできます。

たですからね。それを思うと医療技術は日進月歩でかなり細くなりましたね。

松原 細さだけで見ますと、直径が五分の一ほどになったのではないのでしょうか。

患者さんに寄り添う診療を实践

萩原 では、松原院長が心掛けておられる診療方針についてお聞かせ下さい。

松原 苦痛に顔を歪めて来院される患者さんが多いので、少しでも楽になってもらい、笑顔でお帰り頂けるようなクリニックを目指したいと思っています。

萩原 患者さんに寄り添う診療ですね。確かに院長のお話を伺っていると、コミュニケーションをすごく大切にされているのが伝わってきます。

松原 ありがとうございます(笑)。まず最初に「どこが痛いのか?」「どういうことがつらいのか?」を詳細にお聞きしないと治療方針は定まらないので、何より患者さんの言葉に耳を傾けることを大切に取り組んでいます。ただし開院して間もないとあって、患者さんには長い時間お待ちしている状況で、そのあたりが心苦しいです(笑)。

萩原 現在は一日にどのくらいの患者さんが足を運ばれるのですか。

松原 三十名くらいでしょうか。もちろん大西先生の時代から通っておられる患者さんが多くいらっしゃるからですが。

萩原 それはすごいですね。開院して間もなくで、その数字はあまり聞きません。

松原 本当にありがたいことです。それだけに待ち時間については贅沢な悩みだと思っています(笑)。

萩原 でも、患者さんに待って頂くということは、それだけ院長が真摯に向き合っている何よりの証拠ですものね。

松原 そう思って頂けると嬉しいのですが

(笑)、大西先生が患者さんをお待たせするのが嫌いだっただけです。以前から通われている患者さんには待ち時間に関して非常に申し訳なく思います。その代わりと言っては何ですが、待合室をゆったり広めに取るなどの工夫はさせて頂きました。

萩原 では、スタッフの皆さんに日頃から心掛けてもらっていることはありますか。

松原 冒頭でも申し上げましたが、以前から働いている経験豊富なスタッフばかりですし、患者さんへの接し方ひとつを取っても、「この人達となら」ということで開業を決意しましたので、特に訓示めたことはありません。全員が自らの役割を把握してくれていますので心強い限りです。

萩原 とところで、周辺に消化器専門のクリニックはどのくらいあるのでしょうか。

松原 循環器系は多いのですが、大病院以外で消化器系を専門にするクリニックは意外と少ないですよ。循環器クリニックの先生から紹介されることもありますし、そういう意味では連携体制もしっかり構築できるのではないかと期待しています。

萩原 そうしますと、手薄な場所に消化器専門のクリニックができて、さぞ地域の人は喜んでおられるでしょうね。

松原 偶然の開業ではありましたが、私にとっても喜ばしいことですし、それだけに皆さんから頼りにして頂けるよう精進を重ねたいですね。ビルの中にあるため分かりにくく、また、大きな看板も出していませんので、飛び

①INFORMATION

愛媛新聞・愛媛電算ビルが目印です!



込みというより口コミによって通われる患者さんが多いのですが、予想していた以上に順調なスタートが切れて良かったです。

萩原 今後ますます需要が高まってくるのは間違いありませんね。それでは最後に将来の夢や目標をひと言お願いします。

松原 先程も申し上げた通り、患者さんが少しでも笑顔になってお帰り頂けるような診療を実践して、「地域密着の頼れるパートナー」を目指したいですね。また、ペインクリニックの観点からでは、自律神経失調症やストレスを抱えておられる方に、「スーパライザー」という近赤外線治療器で光線を喉に照射する「星状神経節近傍照射療法」を施すことができます。関節痛や更年期障害でお悩みの方にも効果的ですので、ぜひ利用して頂ければと思います。その他では糖尿病診療にも積極的に取り組みたいですし、ベッドが十床ありますので、がん患者さんに外来化学療法などを受けてもらえるよう、四国がんセンターなども連携を進めていければと思っています。

萩原 地域の皆様にとって本当に心強いクリニックが誕生しましたね。院長ご自身もお身体を大切に、末永くご活躍頂きたいと思います。頑張ってください。